

福島民友

THE FUKUSHIMA MINYU

第38559号 (日刊) 2011年 (平成23年) 10月22日 (土曜日)

金箔の宮殿修復

森合 震災で被害の東光寺



三宝尊像が安置されている宮殿の修復作業に取り組む職人

福島市森合町の日蓮宗東光寺は、東日本大震災で損壊した本堂にある三宝尊像を安置した宮殿の修復、洗浄を実施している。作業は22日まで予定している。

同寺は震災で本堂の壁が崩れるなどの被害を受けた。壁近くにあった金箔で覆われた宮殿は直接の損壊は免れたものの、三宝尊像

にほこりがかぶるなどの被害を受けた。

今回の作業は1945(昭和20)年に宮殿を新調して以来、初めての作業。仏壇洗浄職人5人が特殊な洗浄剤で泡を使いながら洗浄したり、装飾部分を修復している。篠塚日洗住職は「黒ずんでいたが、よみがえった」と笑顔を見せていた。

メイクリーンの泡洗浄 仏具もすぐにピカッ！

新工法に住職からも驚きの声

寺院の仏像や各種の荘厳具、家庭の仏壇を「特許泡洗浄工法」で蘇らせる、株式会社メイクリーンお仏壇本舗（大阪府堺市／上江田政幸社長）。



独自開発の泡洗浄工法。敷かれたタオルには瞬間に落ちた汚れが



泡洗浄前のくすみのある常花(右)も洗浄後(左)には製作当時の輝きに

独自に開発した泡洗浄は、日本の伝統技術と製作当時の素材を活かした再生技術として注目を集めている。

同社の泡洗浄技術は従来使用される水の代わりに泡とアルコール溶剤を使用するのが特徴。作業は柑橘溶剤で汚れを落とし、次いで汚れを泡で包み込み、最後にアルコー

伝統技術と素材活かす

ル系濯ぎ剤で洗い落とすという手順。わずか数分の工程で、長い年月でついたすすやほこり汚れが洗い落とされ、製造当時の色合いが蘇る。

従来は水の使用による木地の傷み、漆や金箔の張りかえが必要だった

が、泡洗浄ではその問題も解消。寺院から搬出した仏具を分解する必要がなく、その場で作業が行えることも利点。作業時間が大幅に短縮されたことで費用も低減された。

汚れは専用の筆で落とし、剥がれた金箔部分は押し直して修復した。担当の中川真一さんは「そのものの素材をいかに活かせるか」と集中力と細かい気配りで作業を進行。妙昌寺本堂内で行われた作業は3日間で全工程を終了した。

輝く荘厳具を前に沼田住職も「お寺にいなながらできるのも有り難い。『信は荘厳より』とも言いますし、見違えるように感じました」と話した。化学畑にいた上江田社長は仏像・仏具の製作当時の伝統技術と材料を受け継ぎ、次世代へ「美しくお渡し」するためのお手伝いを、と独自技術の開発に努めた。その根底には物を大切に、限りある資源を循環させるという発想がある。メイクリーンへの問い合わせは(072)286-6280へ。